図版46　天王山２号墳（２）

墳丘全景（西より）

墳丘西側裾部の様子（南西より）

石室開口部の様子（東南より）

石室開口部の様子（南より）

図版48　天王山３号墳（１）

墳丘全景（南より）

墳丘全景（北西より）

墳丘全景（北より）

墳丘全景（北東より）

図版50　天王山３号墳（３）

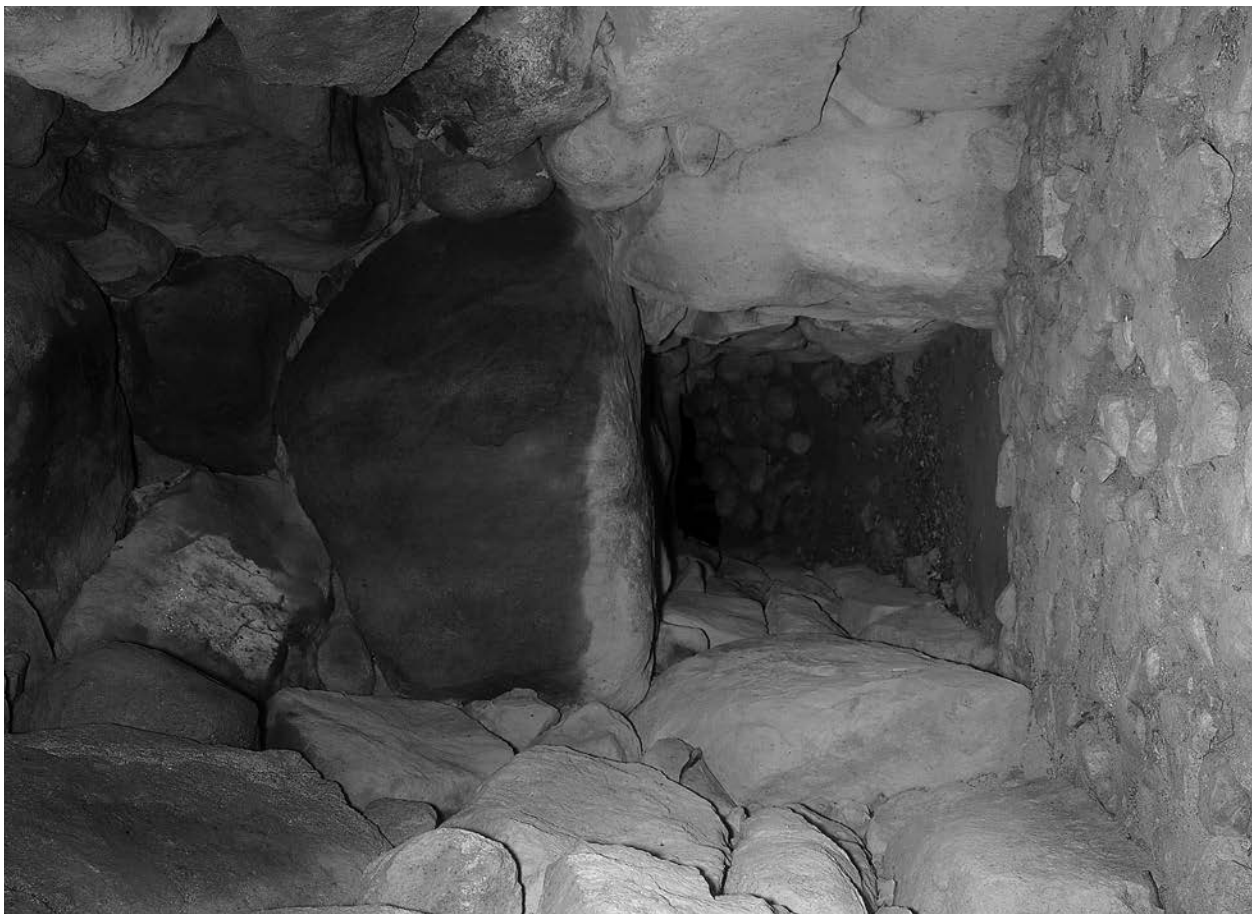
墳丘全景（南東より）

３－５号間の掘割（西より）

西側墳丘裾の様子（南より）

石室開口状況（南より）

図版52　天王山３号墳（５）



前壁部の様子（北より）

奥壁部の様子（南より）

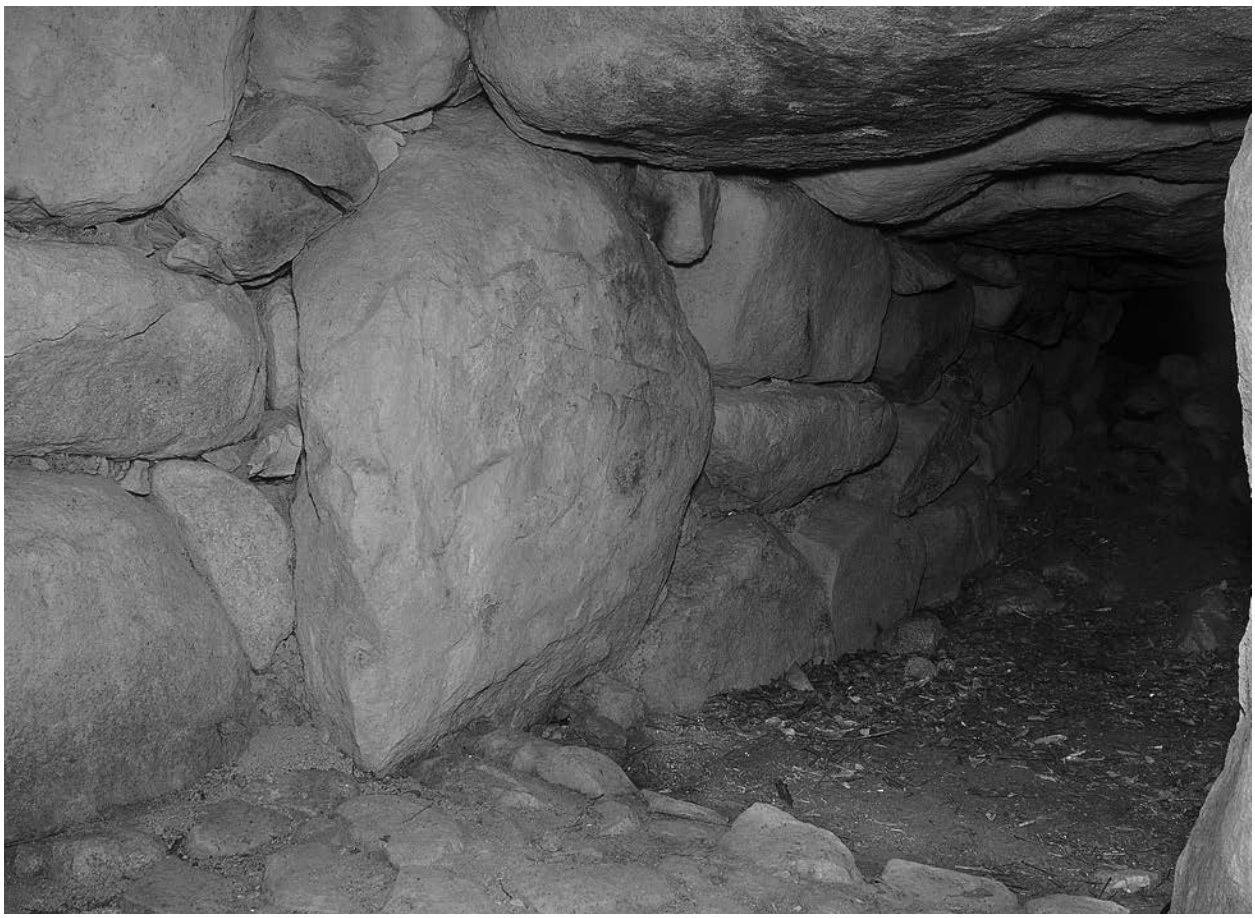
右袖部の様子（北東より）

左袖部の様子（北西より）

図版54　天王山３号墳（７）

玄室奥部左隅の様子（南西より）

玄室奥部右隅の様子（南東より）

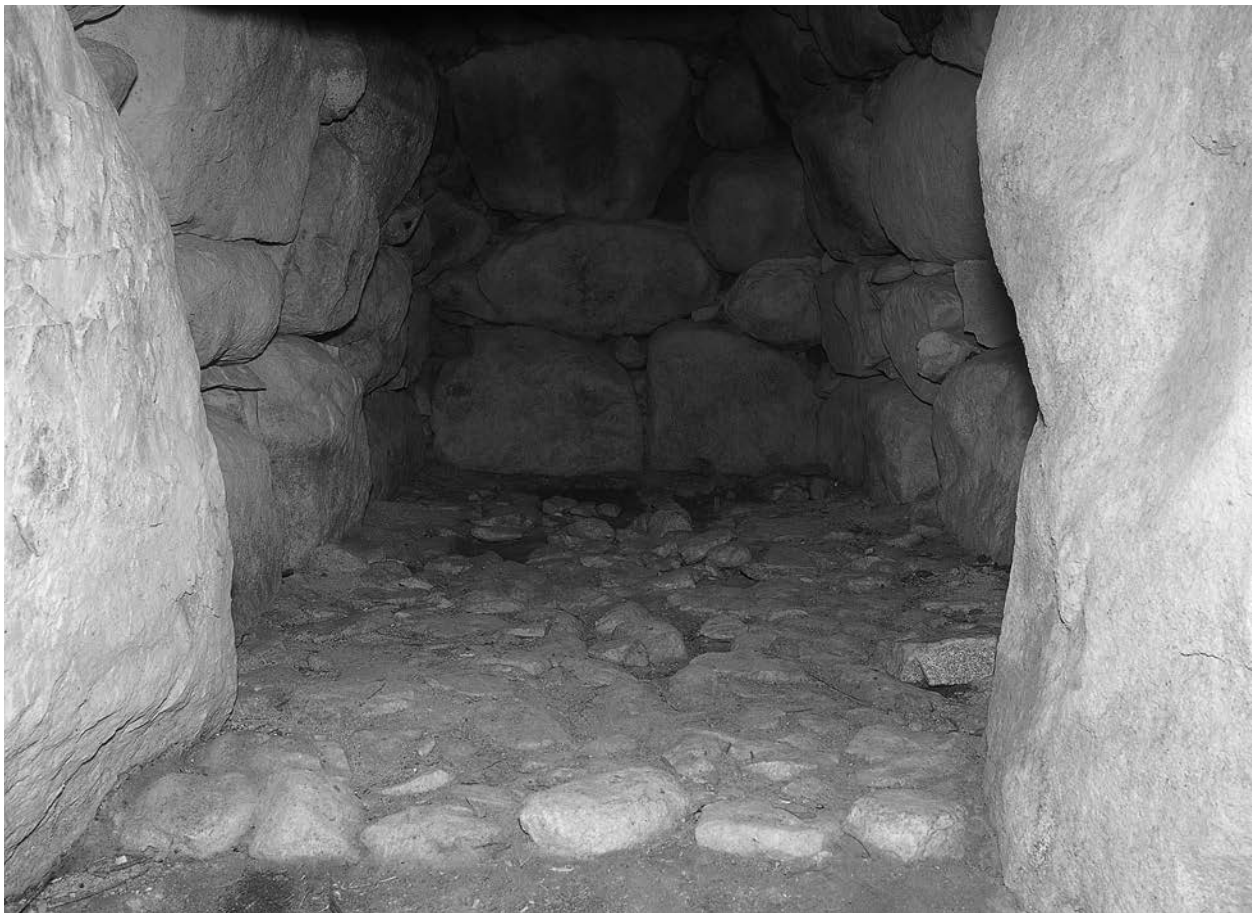


左袖部および羨道左側壁の様子（北西より）

右袖部および羨道右側壁の様子（北東より）

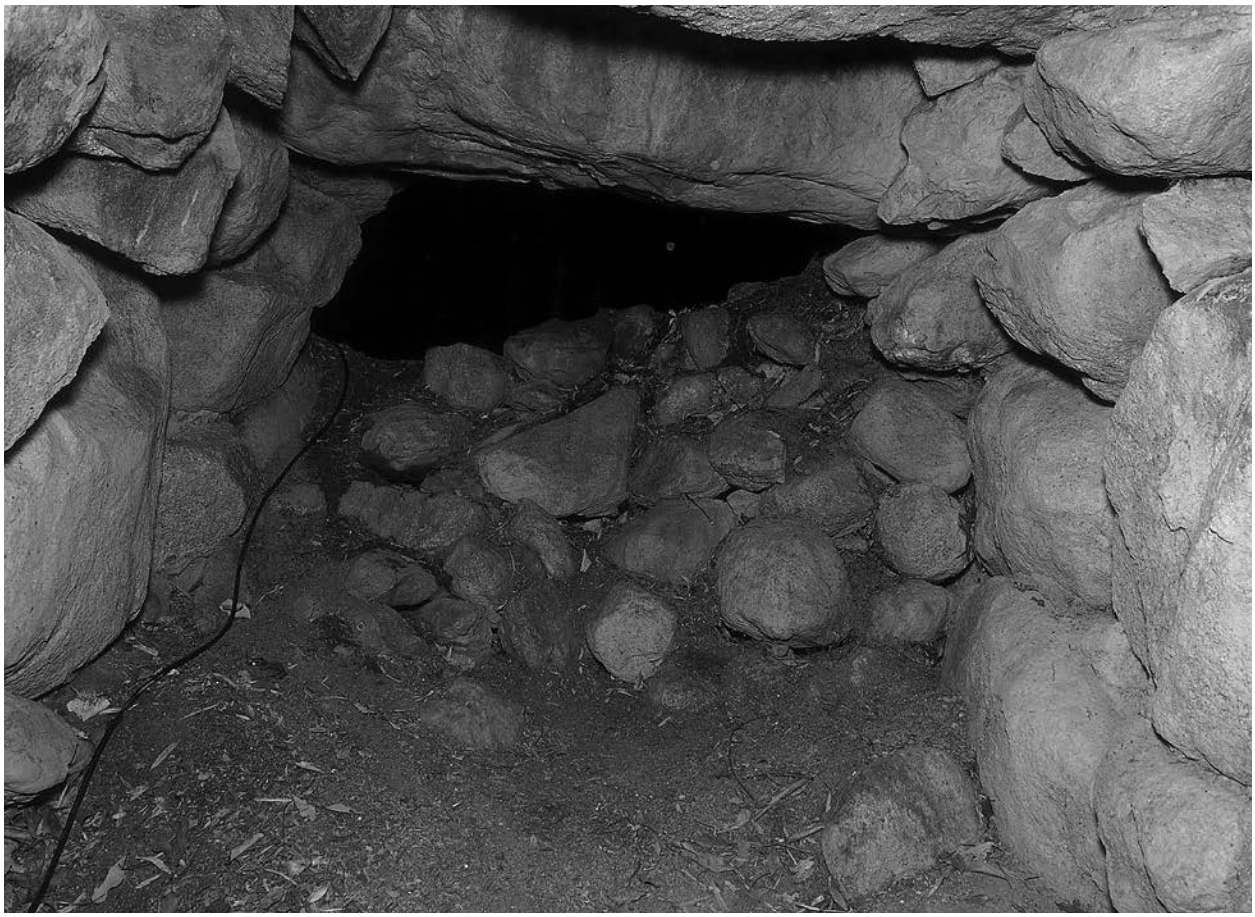
図版56　天王山３号墳（９）

玄室天井部の様子（左が北）



玄室床面の様子（南より）

玄門から羨道部の様子（北より）



閉塞石の様子（北より）

図版58　天王山４号墳（１）

石室材抜取穴の様子（南より）

石室材抜取穴の様子（南東より）

石室材抜取穴の様子（北東より）

墳丘と東掘割の様子（東南より）

図版60　天王山４号墳（３）

墳丘東側掘割の様子（南東より）

墳丘東側掘割の様子（北西より）

墳頂部南側の様子（北西より）

墳頂部北側の様子（北西より）

図版62　天王山５号墳（２）

墳丘全景（北西より）

墳丘全景（西北より）

墳丘全景（東南より）

墳丘と３－５号墳間の掘割（東より）

図版64　天王山５号墳（４）

墳丘東裾部の様子（南より）

墳丘北東裾部の様子（南より）

墳丘全景（北東より）

墳丘全景（東より）

図版66　天王山６号墳（２）

墳丘全景（西より）

墳丘北西裾の様子（南西より）

墳丘北東裾および北掘割の様子（東南より）

墳頂部の石材（南より）

図版68　天王山６・７号墳（１）

８号墳からみた６・７号墳の様子（北東より）

６・７号墳間の掘割（南より）

６・７号墳間の掘割（北西より）

６・７号墳西側の掘割（西より）

図版70　天王山７号墳（１）

墳丘全景（北より）

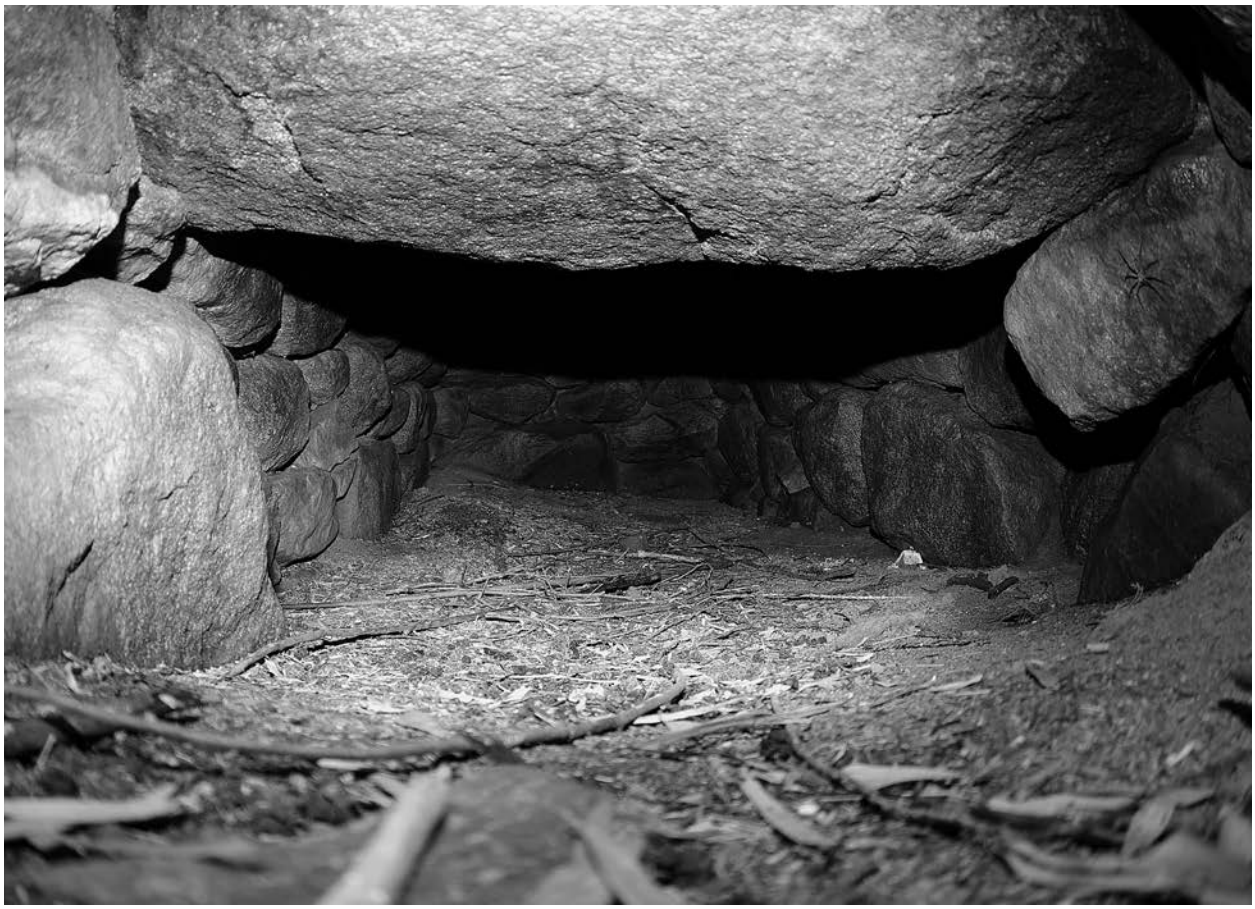
墳丘全景（西北より）

墳丘全景（南東より）

墳丘全景（南より）

図版72　天王山７号墳（３）

石室開口部の様子（南東より）



石室内の様子（南より）

墳丘全景（東より）

墳丘全景（南西より）

図版74　天王山８号墳（２）

墳丘全景（東北より）

墳丘全景（西南より）

墳丘南側掘割の様子（南西より）

墳丘東～南側の掘割の様子（北西より）

図版76　天王山８号墳（４）

墳丘北側掘割の様子（西より）

墳頂部の様子（南より）

図版77　天王山９号墳（１）

墳丘全景（南東より）

墳丘南東側掘割の様子（北東より）

図版78　天王山９号墳（２）

墳頂部における石材散布状況１（南より）

墳頂部における石材散布状況２（北西より）

墳丘全景（南東より）

墳丘全景（北より）

図版80　天王山10号墳（２）

墳丘南東側掘割の様子（南西より）

墳頂部の石材（西より）

墳丘全景（南東より）

墳丘南東掘割部の様子（東北より）

図版82　天王山11号墳（２）

墳丘全景（東より）

墳丘北東側平坦面における須恵器の散布状況（北より）

墳丘全景（南より）

墳丘全景（南東より）

図版84　天王山12号墳（２）

墳丘全景（西北より）

墳丘南側掘割部（東北より）

墳丘北側斜面の様子１（南より）

墳丘北側斜面の様子２（西より）

図版86　天王山13号墳（１）

墳丘推定地の様子（南西より）

墳丘推定地北斜面の様子（西南より）

墳丘全景（南西より）

墳丘南西部の様子（南より）

図版88　天王山14号墳（２）

墳丘北斜面の様子（東北より）

墳丘北東斜面の石材露出状況（北東より）

墳丘全景（南より）

墳丘全景（北より）

あとがき

カタハラ古墳群の調査を共にした学生諸君と天王山古墳群の測量を志して以来、多くの時間を費やすこととなってしまいましたが、ようやく測量調査の成果を世に出すことができました。

測量への着手以来、ここに至るまでには数えきれない程の作業の中断があり、この間にも多くの業務を担当しつつ幾つかの報告書や刊行物の執筆も行ってきました。振り返ってみればもっと効率良く作業を行えば本書の刊行もこれほどに時間を掛けずにできたのではないかと反省しきりですが、なんとか刊行へと持ち込めたのは怠惰な担当者にプレッシャーをかけ、尻を常に叩き続けてくれた周囲の皆さんのお陰と感謝しています。

あいかわらず日常の業務は多忙であり、寄り道をする余裕など無い状況の中で今回のような古墳の測量調査に労力を割くことは、本務とのバランスを考えれば周囲にそれなりの負担を掛ける事でもあり、歓迎されることでは無いのかもしれません。それでもこの作業に取り組み続けてきたのは文化財の種別や時代を問わず、市内所在の文化財に広く目を配ることを忘れてはいけないという自己への戒めと、与えられた仕事だけでなく文化財の保護や調査のために、常に何かに取り組む姿勢を持ち続けたいとの願いからです。

とはいえ、報告書の作成は担当者一人の力でできるものではありません。今回も同僚諸氏の助言、協力は勿論のこと、現地での作業にあたっては西本智弘さんに多大なご協力を頂きましたし、材質分析については奥田尚さんや奥山誠義さんの手を煩わせ、玉稿を頂く事ができました。

なお、原稿の執筆と編集の殆どは編者が纒向学研究センター勤務期間中に行ったもので、製図や編集作業にあたっては木場佳子さん、広瀬侑紀さんの全面的な協力を頂くとともに、公益財団法人桜井市文化財協会には今回の調査の意義に理解を示し、本書の刊行について多大なご協力を頂くこととなりました。記して皆様に感謝致します。

この多くの皆様の協力のもとに成った本書が、将来にわたる天王山古墳群の保存と研究に資するものとなることを願いつつ筆を置くこととします。　（2018. 5　編者）

報告書抄録

ふりがな	あかさかてんのうざんこふんぐんのけんきゅう
書名	赤坂天王山古墳群の研究
副書名	測量調査報告書
シリーズ名	公益財団法人桜井市文化財協会調査研究報告
シリーズ番号	第１冊
著者名	橋本輝彦　奥田尚　奥山誠義
編集者	橋本輝彦
編集機関	桜井市纒向学研究センター
所在地	〒633－0085　奈良県桜井市大字東田339番地　　TEL/FAX0744－45－0590
発行機関	公益財団法人桜井市文化財協会
所在地	〒633－0074　奈良県桜井市大字芝58番地２　　TEL0744－42－6005/FAX0744－42－1366
発行年月日	平成30年６月１日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号				
赤坂天王山古墳群	桜井市大字倉橋字赤坂2846番地	92061	15C-0044	34°30′03	135°52′29″	2000.01～2009.07	測量調査

所収遺跡名	種別	主な遺構	主な遺物	特記事項
赤坂天王山古墳群	古墳	方墳・円墳・横穴式石室	なし	史跡 天王山古墳を中心とする古墳群の測量調査

公益財団法人桜井市文化財協会調査研究報告　第１冊

赤坂天王山古墳群の研究
―測量調査報告書―

編　集　　桜井市纒向学研究センター
〒633-0085　奈良県桜井市東田339番地
TEL/FAX　0744－45－0590
発　行　　公益財団法人桜井市文化財協会
〒633-0074　奈良県桜井市芝58番地２
TEL　0744－42－6005
FAX　0744－42－1366

発行年月日　平成30年６月１日

印　　刷　株式会社　明　新　社
〒630-8141　奈良市南京終町３丁目464番地

June, 2018

The foundation of Sakurai City Cultural Properties Association,

Nara Prefecture,Japan.